

品番 V E S 1 3

品名	灯具品番	適合ポール
エントランスライト EJ - 13型用灯具	V E S 1 3	V H K 2 0

お客様へ



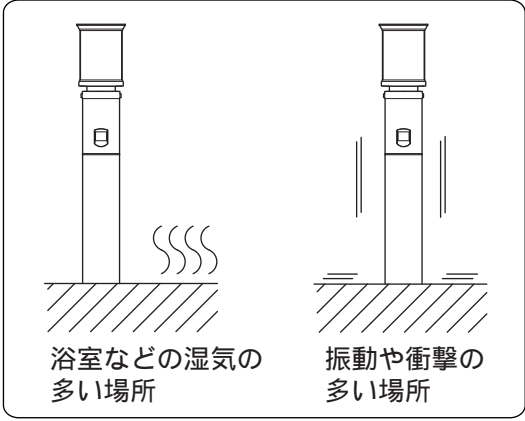


器具の施工には電気工事士の資格が必要です。
 必ず、工事店・電器店に依頼してください。

工事店様へ



施工の前によくお読みのうえ、正しく施工してください。
 取扱説明書は必ずお客様へお渡しください。

安全上のご注意

警告


 禁止	<p>■ 次のような場所に取り付けない</p> <p>この器具は防雨型・ポール取付専用です。 指定場所以外に取り付けると、火災・感電・ 落下によるけがのおそれがあります。</p>	 分解禁止	<p>■ 器具を改造したり、部品交換をしない</p> <p>火災・感電・落下による けがのおそれがあります。</p>
	 <p>浴室などの湿気の 多い場所</p> <p>振動や衝撃の 多い場所</p>	 禁止	<p>■ 交流 100 ボルトで使用する</p> <p>過電圧を加えると過熱し、 火災・感電のおそれがあります。</p> <p>■ 器具表示の指定方向に取り付ける</p> <p>火災・感電のおそれがあります。</p>
		 アース線接続	<p>■ 接地工事は、電気設備の技術基準に 従い確実にを行う</p> <p>接地が不完全な場合、 感電のおそれがあります。</p>

注意

 禁止	<p>■ 温度の高くなるものの近くに 取り付けない</p> <p>ガス機器やその排気筒の近くに 取り付けないでください。 火災の原因となることがあります。</p>	 禁止	<p>■ 調光器と組み合わせて使用しない</p> <p>調光機能付壁スイッチなどの調光器と組み合 わせて使用しないでください。 火災の原因となることがあります。 ・調光器の取り外しが必要です。</p>
---	--	---	---


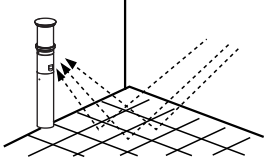

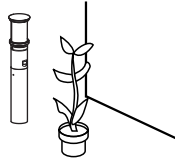
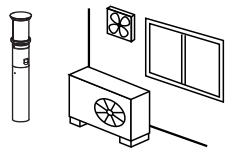

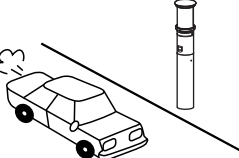



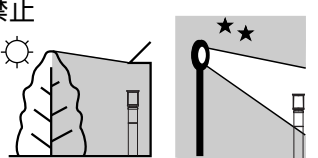
この紙は再生紙を使用しています。

取付場所について

センサの検知性能をより確実にするため器具の取付位置は  4ページ「設定のしかた」の項目をよくご覧のうえ、設定してください。

次のような場所に取り付けしないでください。

- ・このセンサは、周囲の明るさと温度変化を検知しますので、誤動作の原因となります。

<p> 禁止</p> <p>大理石など反射の強い床面のある場所</p> 	<p> 禁止</p> <p>風などでよくゆれる植物の近くなど</p> 	<p> 禁止</p> <p>エアコンの吹き出し口、換気扇の近く</p> 
<p> 禁止</p> <p>交通量の多い道路に面した場所</p> 	<p> 禁止</p> <p>前面に障害物のある場所（透明なガラスも含む）</p> 	<p> 禁止</p> <p>昼間でも暗い所や夜間でも明るい場所</p> 

配線について

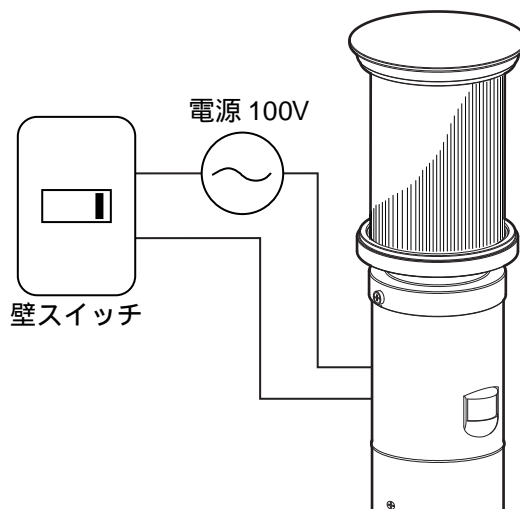
壁スイッチは必ず併用してご使用ください。
付属されていませんので別途ご用意ください。

壁スイッチがないと・・・

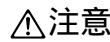
- ・センサによる点灯モードに異常が発生したとき、リセットできません。
- ・センサに関係なく連続点灯することができません。

壁スイッチにパイロットスイッチを使用すると、壁スイッチをONにしても照明器具が消灯状態（センサ待機状態）のときはパイロットスイッチ表示が点灯しません。

壁スイッチは器具 1台につき 1個でご使用ください。
2台以上の器具と接続すると連続点灯（取扱説明書参照）に切り替えるときに不具合が生じる場合があります。



各部のなまえと取り付けかた



器具取り付けの際は、安全のため電源を切ってください。
通電状態で行うと感電の原因となることがあります。

1 ポールを建てる

ポールの施工説明書は、別途ポールに添付しております。必ずご参照ください。

2 口出線に電源線を接続する

電源線は、ケーブルのシース部を電源線押さえでしっかり固定してください。
ケーブルの押さえ量はケーブル外径の1/4程度としてください。

押さえ込みすぎると絶縁破壊の原因となります。

口出線との接続はスリーブなどにより確実にを行い、防水テーピングを施してください。

(内線規定(JEAC8001-2000)1335-7~9に準ずる)

接地端子ネジからD種(第三種)接地工事を行なってください。

接続が不完全な場合、感電・火災の原因となります。

3 本体取付ネジ(2本)で本体をポールに取り付ける

線のかみ込みにご注意ください。

感電や漏電の原因となります。

取り付けが不完全な場合、感電・落下によるけがの原因となります。

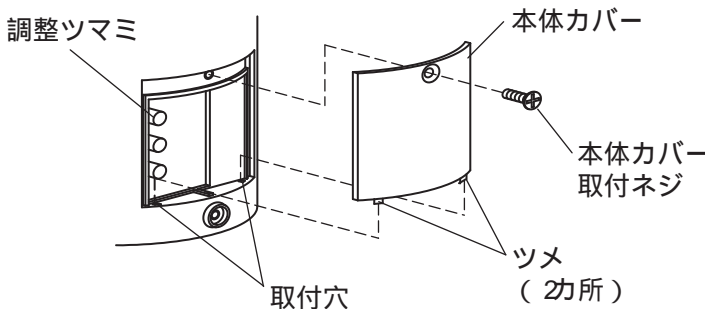
4 グローブ取付ネジ(2本)をゆるめてグローブを取り外し、ソケットにランプを取り付ける

5 検知部の調整と調整つまみを設定する

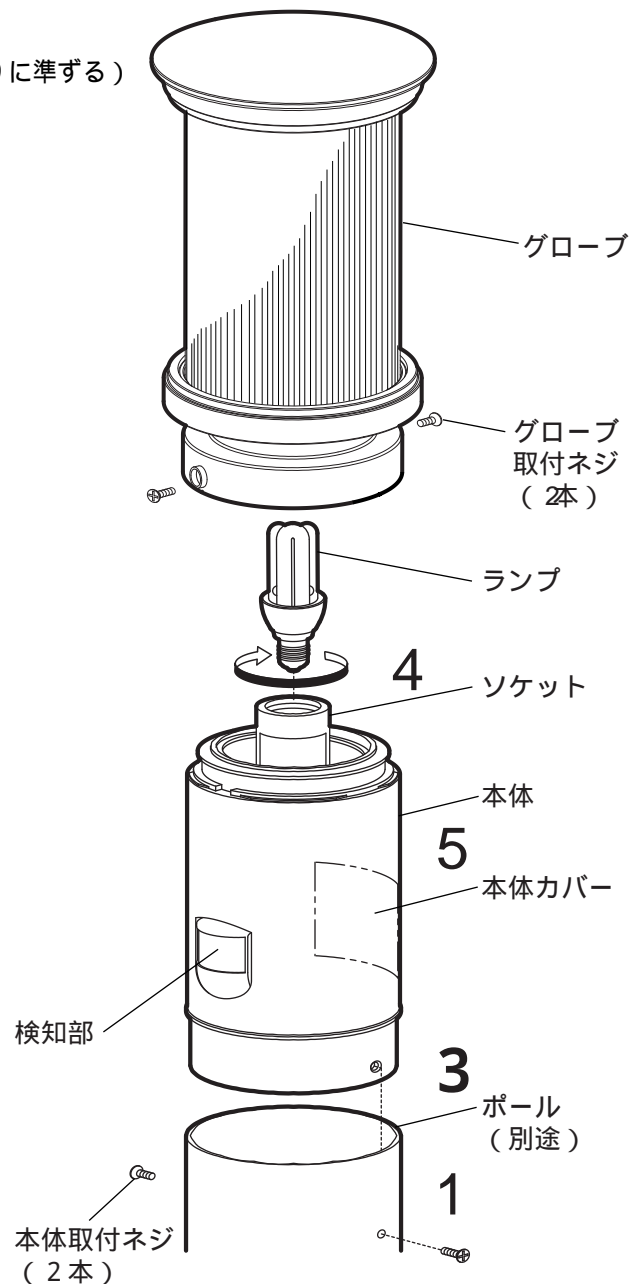
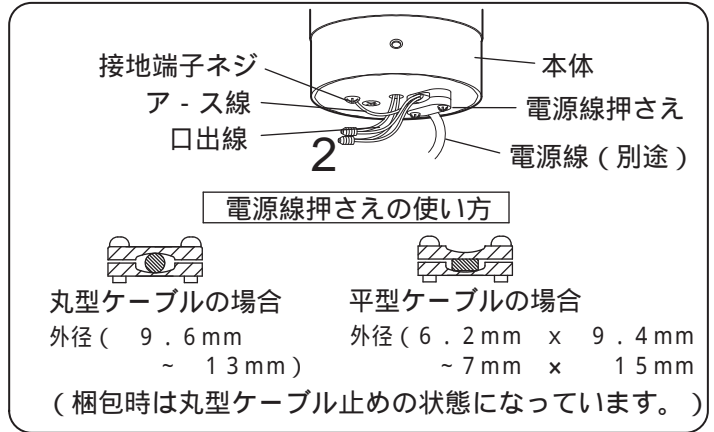
☞ ページ「設定のしかた」を参照して設定してください。

本体カバーの取り付け方

- ・ツメ(2カ所)を本体の取付穴に差し込み
本体カバー取付ネジで取り付ける。



- ・本体カバーは必ず取り付けて使用してください。
本体カバーを外したまま使用すると水が浸入し、感電・故障の原因となります。



設定のしかた

検知範囲の設定は昼間に行うこともできます。

壁スイッチがOFFになっていることを確認してください。

1 本体カバーを外す

3ページ「各部のなまえと取り付け方」を参照して、本体カバーを外してください。

2 検知範囲を設定する

(1) 調整ツマミの設定を変更する

- ・点灯保持時間を「秒」にする。
- ・明るさセンサを「明るめ」(右いっぱい)にする。
- ・お出迎え時間を「切」にする。

(2) 壁スイッチをONにし、検知範囲の外へ出て待ち、約4秒後に消灯することを確認する。

- ・消灯しない場合は次のような要因が考えられますので処置を施してください。

お出迎え時間が「切」になっていない
連続点灯になっている
(検知部が赤く光っている)

「切」にする
壁スイッチを一度
OFFしてから再び
ONにしてください

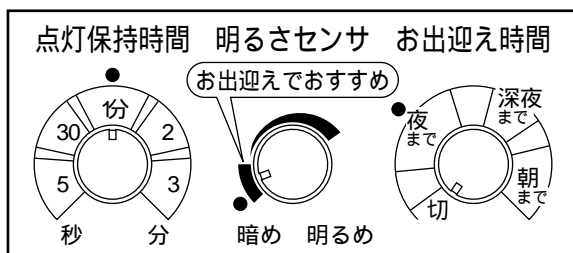
(3) 検知範囲を調整する

- ・検知範囲は下図のような範囲です。
- ・器具背面の本体回転固定ビスをゆるめ、本体(検知部)を回転させ現場にあった検知範囲を設定してください。
- ・検知部を下方に可動させることにより検知範囲を段階的に調整することができます。
- ・不要な検知範囲の調整は同梱の検知エリアカットシールを検知部に貼り付けてください。

注) 本センサは人の動きなどの温度変化分を検知するため、人以外の熱源(動物等)が移動したときも検知する場合があります。検知範囲は気温、服装、人の移動速度、進入方向、人の温度、器具の取付高さ、取付面の傾きなどにより多少変化します。センサの性能上、器具に向かってまっすぐに接近した場合は、より近づかないと検知しない場合がありますが故障ではありません。

3 一旦、壁スイッチをOFFにする

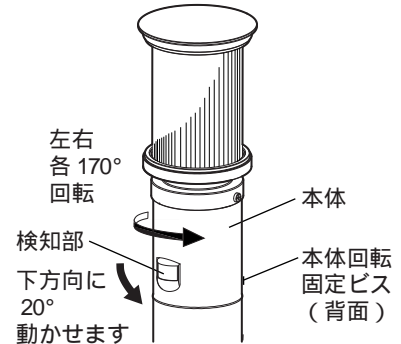
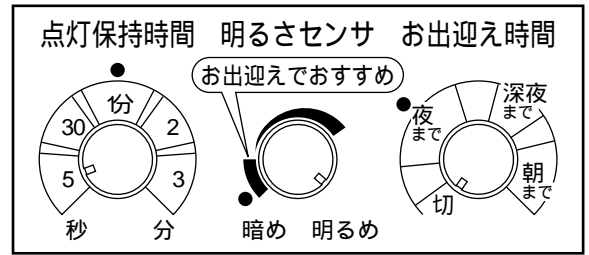
4 調整ツマミを使用状態に設定する



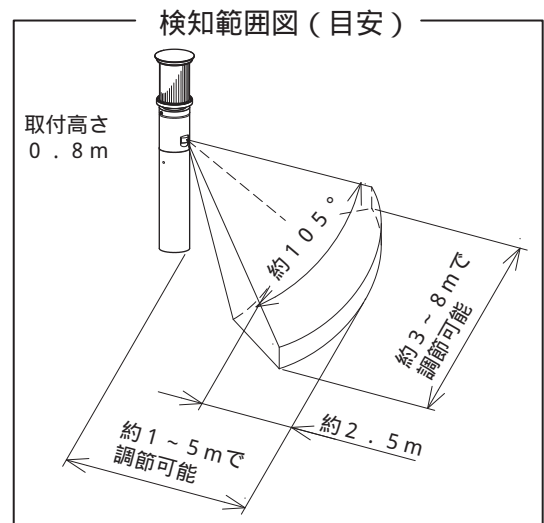
5 本体カバーを取り付ける

3ページ「各部のなまえと取り付け方」を参照して本体カバーを取り付けてください。

6 壁スイッチをONにする



検知エリアカットシールの貼り付け方



取扱説明書3ページ「この器具の2つのモードについて」を参照し、どのモードで使用されるかを必ず検討の上調整ツマミの設定を行ってください。

(左記設定では暗くなって人が近づいたときだけ点灯します。)

- ・点灯保持時間を「分」にする。
- ・明るさセンサを「暗め」にする。
- ・お出迎え時間を「切」にする。